

2021年1月20日

日本学生ハーフマラソン記録挑戦会の開催にあたって (新型コロナウイルス感染予防対策)

弊連盟では上記の大会において、公益財団法人日本陸上競技連盟の新型コロナウイルスの感染拡大防止のガイダンス（2021年1月15日改訂）を参考に、開催府県である大阪府と調整を行った上運営を行います。

安全・安心な大会運営を目指しますので遵守をお願いします。なお、守っていただけない場合は、参加を認めない、また参加しても競技場から退場していただくことがありますので、よろしくご理解・ご協力をお願いします。

【基本注意事項】

1. 無観客試合

- 本大会は「無観客試合」である。競技者、競技役員、学生審判・補助員、チームスタッフ（監督、コーチ、マネージャー）のみ入場可能とする。
* 感染症対策のため、チームスタッフは以下のID割り振りを参考に入場可能とする。

エントリー 選手（数）	1	2~3	4~5	6~7	8~9	10~
最大ID 発行枚数（枚）	1	2	3	4	5	

回答をもとに、当日正面玄関受付にて、「体調管理チェックシート」と引き換えにID配布。

* 留意点

- 発行枚数を越える人数は入場できない。
- 万が一、IDの不正使用（他人との貸し借り等）が判明した場合は、該当者（選手・チームスタッフ等）の失格・退場に加え、今後所属大学の関西学連主催大会への出場・参加を制限する必要があるため注意すること。
- クラスター感染を防ぐために、大学は、会場内に入る者の名簿（別紙）を必ず代表者が正面玄関受付へ提出すること。
- 選手の保護者は、感染症対策を講じて行うため入場を自粛すること。
- マスコミ関係者は事前に関西学連に問合せを行い、本連盟の感染症対策を遵守する場合のみ入場を認める。

2. 応援の自粛

- 応援については自粛すること。
- チームスタッフが選手の指導等する場合は大声で行わず、対人距離をとること。
- 声を出しての応援は一切禁止とする。拍手等にて行うこと。

3. 「3密」の回避

- 対人距離を2m以上確保すること。撮影などをする場合も同様の対応とする。
- マスクの着用を徹底し、着用時は必ず鼻まで覆うこと。（ただし選手の競技中は除く）
- 諸室は関係設備を運転し、窓・ドアを開放する。

4. 感染症対策

- ・ 感染経路となりうる共有する高頻度接触部位については、主催者において消毒するが、参加者各人が注意し、接触後の手洗いを徹底すること。
- ・ 競技者、審判員、その他全て入場者は、こまめに手洗い・消毒を行うこと。手洗い場にはハンドソープ（ポンプ式）を準備する。
- ・ 競技終了後は手洗い・消毒を行うこと。
- ・ ハンカチやマイタオルを持参すること。
- ・ 感染が疑わしい競技者には、その場で検温を実施し状況により参加を許可しない。

5. 危機管理体制の設置

- ・ 感染症予防対策の策定及びその意思決定を行う「日本学生ハーフマラソン選手権大会記録挑戦会新型コロナウイルス感染症予防対策室」（以下、対策室という）を大会本部に設置する。
- ・ 対策室は本連盟事務局長、大阪陸協事務局長・理事、大阪陸協派遣医師が担う。
- ・ 大会関係者が発熱、風邪の症状がある場合、感染症予防の観点から以下の経路で報告する。

関西学連関係者：本連盟事務局長

競技役員：大阪陸協理事

報告内容を対策室内で共有する。

【大会参加について】

- ・ 競技者・チーム関係者には、所定の「体調管理チェックシート」の提出、検温を義務づける。競技者・チーム関係者はウォーミングアップ開始にあわせて来場し、競技終了後は速やかに競技場を退場すること。下記に該当する場合は、大会に参加（入場）を認めない。
- ① 「体調管理チェックシート」の提出がない。
 - ② 大会当日の朝の検温で 37.5℃を超え、強い倦怠感と息苦しさがある場合。
 - ③ 発熱がなくても風邪の症状や体調不良がある者。
 - ④ 同居家族や知人、友人に感染症疑いのある人、ならびに濃厚接触者がいる場合。

【競技場への入場について】

入場口は以下のように割り振る。入退場の際には、対人距離2m以上を遵守すること。

区分	選手	スタッフ	大学審判員 補助員	競技役員	大会役員他
入場受付	ゴール側門 正面玄関受付 (左)	正面玄関受付 (左)	正面玄関受付 (奥)	正面玄関受付 (右)	正面玄関受付 (右)

- ・ 競技者・チームスタッフには検温後、IDを配布する。競技場では必ず着用すること。
- ・ 入場者は「大阪コロナ追跡システム」へ登録すること。
- ・ ID の無い者は競技場への入場を認めない。

【招集所について】

- ・ 第1次招集は、並ぶ位置に一定距離を空けたマーカーを配置し○付けのみで完了とする。
- ・ 腰ナンバーカードおよびアスリートビブスは招集所にて受け取る。
- ・ 競技者係はフェイスシールドを着用する。

【現地コールについて】

- ・ 待機所は対人距離を確保できる広さを確保し、審判員はフェイスシールドを着用する。

【給水について】

- ・ 給水は、競技開始前に手指を消毒し、マスク、フェイスシールド、手袋を着用して行う。スポンジは使用しない。

【記録について】

- ・ リザルトはツイッターでの発表を正式とする。記録についての抗議はそこから 30 分以内に行うこと。ただし、自身の記録を確認後、抗議がない場合、速やかに退場すること。

【更衣室に関して】

- ・ 一度に多人数が使用しないように、張り紙及び監督者を置き、滞在時間は短時間となるよう指導する。一度に使用できる人数は各部屋 10 人までとする。なお、男子更衣室は雨天走路スタート地点側とし、最大 25 名利用可能とする。
- ・ 換気扇を常時作動させ、窓を開放する。なお、シャワーの使用は禁止とする。

【各大学の待機場所・集合について】

- ・ 大学としての待機場所については、基本的に設けてはならない。ただし、サイドスタンドのみ開放するため、必要な場合には感染予防対策を徹底したうえで利用しても良い。
- ・ ミーティング等は、競技場内・競技場周辺等いかなる場所においても禁止とする。

【その他】

- ・ 競技終了後、全ての箇所・使用機材を消毒する。
- ・ 審判打ち合わせは実施しない。（伝達事項は役員室のホワイトボードに記載）
- ・ 参加者は大会終了後、症状が 4 日以上続く場合、必ず最寄りの自治体の衛生部局と大会主催者（関西学連）に報告すること。
- ・ ゴミは各自ビニール袋に入れて持ち帰ること。競技場内全てのごみ箱は撤収する。
- ・ 怪我、病気の応急措置は検温を再度した上で医療従事者が対応するが、急病による発熱と感染症による発熱の区別がつかない場合、その場にいる医療従事者と相談し対応を行う。
- ・ 競技前後の飲食（食事含む）については「密」にならないよう注意し、「会食」は厳禁とする。